

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：

愛知県 名古屋市立西養護学校

活動名：

今こそ「チーム」に！ ～教職員の意識改革を目指して～

解決すべき課題：

- ・ 全教職員数が 114 名と多いため、意思疎通に時間が掛かり、学校全体をまとめることが難しい。
- ・ 仕事の分担に偏りが生じ、不公平さを感じている教職員が少なくない。
- ・ 教職員の多くは情報収集・共有・発信において消極的な傾向があり、受け身な姿勢が目立つ。

目標・方針： 114 名の教職員一人一人がチームの一員として主体的に取り組めるようにする。

- ① 教職員の意識改革（主体的に取り組む姿勢の育成）
- ② 不公平感のない役割分担
- ③ 誰もが意見を言える体制づくり

活動内容：

- ① 能動的かつ主体的に情報を収集し、校内研修に参加できるようにした。研修内容を「いつかは役立つ大切なこと」から「今すぐに使える実践的なこと」に視点を変え、強制的な全員参加型【写真1】ではなく、興味のあるテーマを選べる自由参加型【写真2】にした。
- ② 今までは分担される仕事の個数にばらつきがあり、教職員の不満の種になっていた。そこで、校務分掌の仕事内容に点数を付け、平均点に近付けることで仕事の分担に関する不公平感が少なくなるようにした。
- ③ 学年単位でグループを編成した。高等部全体に関する内容は、50 名程の「学部会」で情報共有をして、さらに 15 名程の「学年会」で細やかな検討や更なる情報共有を行うことにした【図2】。学年単位グループで配慮を要する生徒についての情報交換を行い、密に連携を取り合えるようにした【写真3】。

活動の成果：

- ① 研修テーマを募集したところ「もっと教科の専門的な話が聞きたい」等の声が上がリ、主体的に参加できる学習会を設定できた。また、参加者が 100 名を超える強制的な学習会ではなく数十名で行うことで、日頃から疑問に感じていることを気軽に口にできて、すぐに答えを得ることができるような機会となった。
- ② 分担される仕事の個数が同じになるように改善を試みたが、仕事の軽重に差があり、不公平感の解消には至らなかった。そこで、チーフや主任を 2 点に、その他を 1 点にして、平均 4.5 点になるように分担した。個数ではなく、仕事内容で点数化したことにより、不公平感を解消することができた【図1】。
- ③ 学年単位グループで会議を行うことで、より細やかな情報共有の場をつくることができた。全体に下ろした内容をグループで検討し、意見を出し合ってまとめる。各々がメリット・デメリットを明確にした上で、それぞれのグループの意見を再び全体で集約することで、詳細が見えるようになり、より内容を深めることができた。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・ 教職員が能動的かつ主体的に研修に参加することで、企画・運営にも積極的に関わるようになった。
- ・ 学年単位グループをつくることで、密に連携しながら情報共有・情報交換をすることができた。
- ・ 校務分掌の仕事内容を点数化して平均的にすることで、長年抱かれていた不公平感が解消できた。
- ・ グループで意見を出し合える場をつくることで、なかなか発言できなかった人が意見を言えるようになった。

① 教職員の意識改革（主体的に取り組む姿勢の育成）

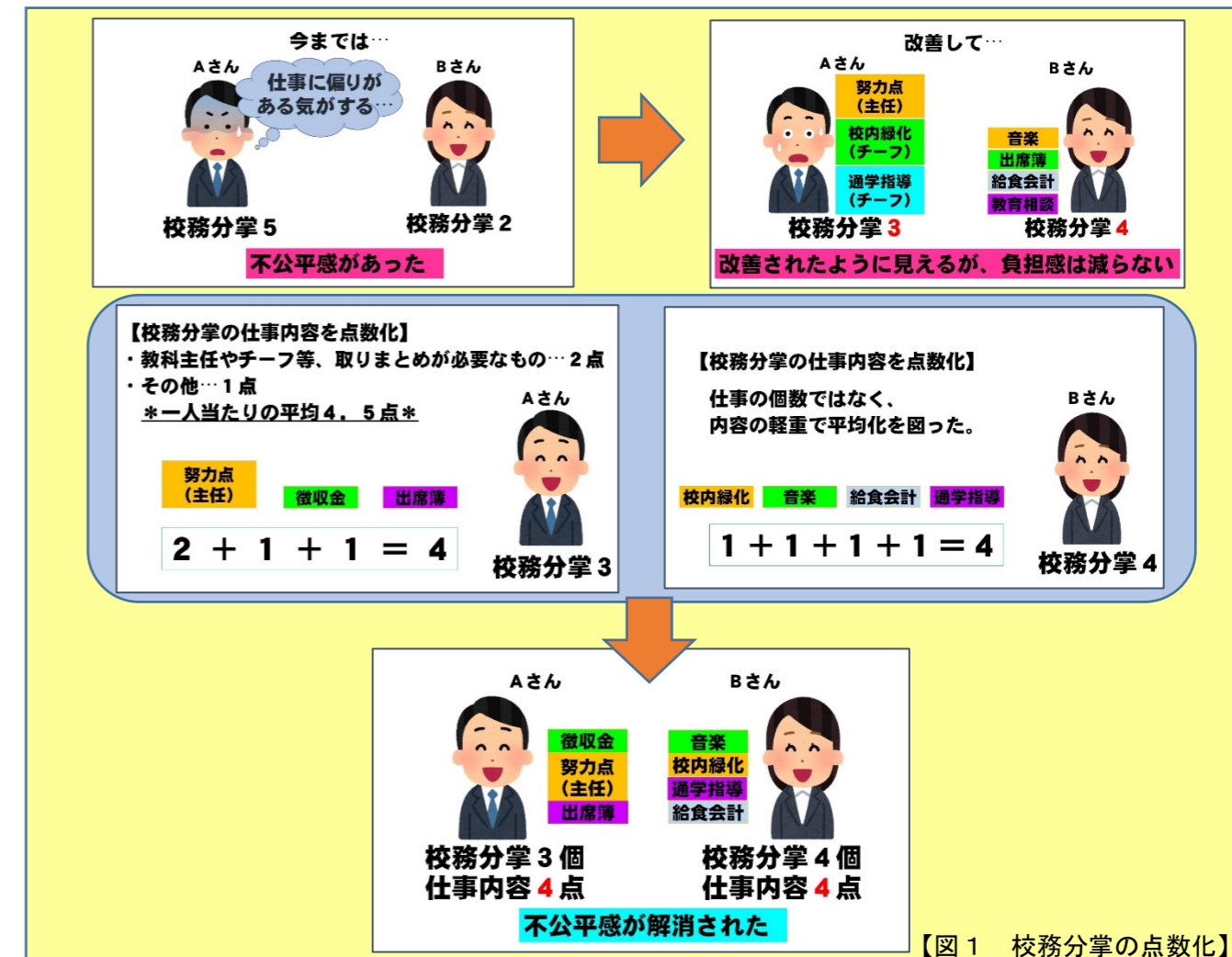


【写真1 全員参加型の研修会の様子】



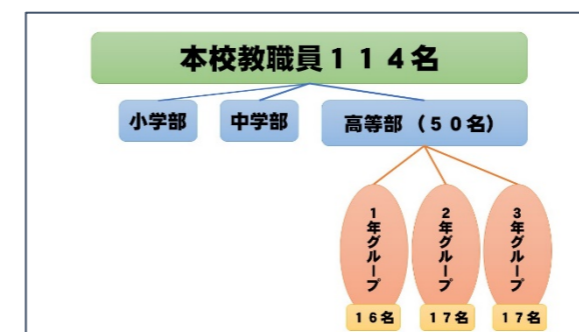
【写真2 自由参加型の研修会の様子】

② 不公平感のない役割分担



【図1 校務分掌の点数化】

③ 誰もが意見を言える体制づくり



【図2 学年単位グループの編成】



【写真3 意見を出し合う様子】